

October
10・1

1997
No. 708

小田原

広

報



発行 小田原市

小田原市萩窪300番地 電話 250

編集 広報広聴課

☎ 0465(33)1261

☎ 0465(32)4640

(毎月1・15日発行)



人がまちをつくり

まちが人を育む



人を育てる



集

ふるさとの心

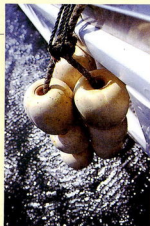
美しい海と豊かな緑に抱かれた城下町、小田原。私たちのまちにはこのかけがえのない自然と、長い歴史や文化の中で育まれ、培われてきた暮らしがある。人々はそれぞれの生活に打ち込みながら、人と出会い、人生を知り、小田原に暮らす喜びを味わってきた。そして、誰もが家業を守る中で家族と助け合い、その絆をあらためてかみしめながら、ともに成長してきたに違いない。

時が流れ、時代が変わり、人やまちが変貌を遂げる中で、一人ひとりの生き方も少しずつその趣を変えてきた。どれほど時が過ぎようとも頑固に受け継がれゆく大切なもの、そして未来に向けて取り入れられてきた新しい知恵……それは、どんな暮らし方



歩む

海に生きる



特

受け継がれゆく

今回は、小田原に生きる三組の親子への取材から、親から子へと受け継がれる「ふるさと・小田原の心」をご紹介します。

小田原の宝である海の恵みを受けながら、その美しさを守り続けてきた漁師の父と子。城下町のにぎわいと繁栄を支える商いに携わる親子。そしてまちをつくりあげる人間を慈しみ、育てる教師の母と娘。三組の話から、それぞれの暮らしの素晴らしさや、ふるさと小田原での生き方をかいま見て、移りゆく時代の波の中で何を守りながら、どの方向に進んで行くべきか、あなた自身の生き方・暮らし方と照らし合わせて考えてみてください。

街と

人

を育てる

子供を思う心と願いは いつの時代も変わらない



母子二代にわたって教師という仕事を選んだ神保芳子さん（70歳）、るりさん（34歳）。芳子さんは戦後初めて教壇に立ち、昭和59年、城内小学校（現三の丸小）を最後に退職。一方、るりさんは泉中学で3年、現在の勤め先である橘中学で7年間を過ごしてきた。戦後から平成までの歳月の中で、教育の現場はどのように変わってきたのだろうか。

終戦直後、若き芳子先生は
徹夜で作った教科書を抱いて
教壇に立った。

神保芳子さんが希望を胸に師範学校を卒業し、教職に就いたのは約50年前のこと。時は昭和23年、日本は終戦直後の混乱期にあった。当時のことを芳子さんは笑いながらこう語る。「満足な教材もなかった時代でした。果ては消された部分のある教科書も、自分などで徹夜でかり版を切ったペラペラの冊子を使って授業をするしかなかったんです。特に苦勞をしたのは算譜、鉄筆でオタマシックスを早くくと、ガリ版が切れちゃうんです。だから今でも算譜のこいてある紙はもっていないくて捨てられなくて……」。当時、毎日のように芳子さんが教え子に語っていたのが、ラジオドラマ『鐘の鳴る丘』の物語。クラスの子供たちは、まるで我がことのように競争で親をこくした子供たちの物語に耳を傾けていたという。

何を勉強するかよりも、まず勉強をする体制を整え、学ぶ楽しさを子供たちに教えるのに懸命になるしかない時代だった。そんな中、「芳子先生、が子供たちに開いた授業、それは一緒に海に潜って取ったササエを浜で焼いて食べ、山でわらびを摘んで」「ね、これがわらび。鮎子があるでしょ」と教えること。

こうして集団で学ぶルールを教える一方、芳子さんが心を砕いたのは、みんな同じ人間で、誰もが同じように大切なのだ」と伝えること。それだけに、有力者の子供としておとなでさえイヤホヤする児童にも、芳子さんだけは厳しかった。「そんな教師は初めてだったみたい。だからずいぶん一生懸命」と批判もされました。でも、「どの子も同じように大事にすること」だけは自分に強く言い聞かせていました。だから、こんな教えた子たち



卒業、手放すのは、本当に寂しくてつらかったですね。」
教師としてのこの信念は、娘のりりさんにも、すっかり受け継がれていく。そのりりさんも、母と同じ教師を志したのは小学校高学年のころだった。

母の働く姿、生徒への愛情を肌で感じ、同じ教師を志しました。

「母が働く姿を見て育ちました。苦勞しながらも生徒の心をよそへ思っているのを肌で感じたのが教師を志すきっかけでしょうね。」りりさんは、そう語り語る。

が、そんな彼女にも高校時代、「生薬師」になれるものが見つからず、軽い状態になったり、親に反発した時期があったという。「でも何をしても私を信じてくれたのが両親。親としても教師としても信頼し、尊敬できる……そう思わせる部分があったんです」と語るるりさんが、両親の大きさをさらに感じたのは同じ教師になってからのこと。

教育者としての両親を知る地域の人や教師仲間から、家庭の中では見えなかった、その人となりや教師としての生きざまを伝え聞くようになったのだ。それでも両親は教師の大

先輩として、りりさんに教育論や指導法を押しつけることはなかった。「言っても私が受けつけないのをわかってたんでしょうね（笑）。私が指導案をまとめるのに苦勞している、言葉には出さないけれど、参考にならない資料を目につくほど、無言のうちには、うまくアドバイスしてくれました。」

そんなるりさん母子が最近の教育について同じように心を痛めているのが、教師にも社会にも時間が足りず、ゆとりがなすること。授業のカリキュラムの問題で満足や文化祭など学校の行事も削られているのが現実だ。

「現状の中では『時間がない』とあきらめず、何とか時間をやりくりし生み出しているのが課題です。ただ、稀に勉強するだけでなく、生徒と。ともに生活する。時間が大切だと思いますから」と、るりさん。そのうえで及ばない部分は生徒の親や地域とコミュニ

ケーションを取り、助け合いながら子供たちを育てていくことが大事。また、行政にはゆとりのある学校を保証してほしい、とも語る。が、今では教師と親、地域との関係も昔ほど密ではなくなっているのも事実だ。

地域の教育力があぶない。

芳子さんの現役時代は「子供は学校の子であり、地域の子」という考え方がしつかりと根づいていて、学校では先生が子供たちを深く見つめ、親も地域も同じように子供を理解していた。だが、最近ではその連携ブレイも難しくなった。ブライバシーの問題などから家庭訪問の機会も少なくなり、地域では昔ながらのつながりもなくなり始めている。親、教師以外のおとなから学ぶ機会が失われ、りりさ

んの言う、地域の教育力が消えつつあるのだ。「親も教師も子供に対する願いは同じはず。それらをついに結び付けて、地域全体で子供を育てていくことが大事なのだと思います。」それが芳子さん、るりさんの共通の思いだ。

もう一つ、二人が同じように願っているのは小田原のまのよきをもつ子供たちを知ってもらうということ。その子供たちが財産を受け継ぎ新しい文化を築くまでに育ってほしいというところ。

「この時代には、こんな豊かな自然の中で育っているのは恵まれたことです。だからこそ、子供たちは実体験を通して豊かな心をはぐくみ『自分のことば』で語れるのだと思います。それに、小田原は歴史上の偉人や文学者を多く生んだ土地。また、私たちでも学習しなければならぬ。知っているだけで有名な古墳群や無形文化財もあります。こうした『小田原の文化』を理解し、伝える努力をしていきたいですね。また、行政の力も不可欠イベントよりもぜひ、教育、文化に力を入れていただければ、要望も出しておきましょう」と言うるりさん。

学校がもっと地域とかがわれる環境づくりは、教師だけではできない。子供たちを導く。先生は子供たちを愛するすべてのおとな。多くの先生と手をつないでいくことが二代の親子先生の願いだ。



街

二歩志

世代が変わり、店が変わる 愛する街で受け継がれるものとは



昭和16年創業の塗料店の二代目社長として、店を守ってきた清見介さん(63歳)、息子の信保さん(37歳)はこれまで勤めていた父、亮介さんの塗料店を継ぎ、3年前前からまったく新しいフィールドの店頭に立派。現在、浦で人気のイタリア料理店を営んでいる。小田原で高いにかける父子それぞれの情熱とは。

オヤジ、
じいちゃんの土地を他人に
貸すくらいならオレに貸せ！

一時、にぎわいにやや陰りが見えていた小田原駅前前の浦町。それが今では再び、おしゃれをしたカップルが行き交う通りへとよみがえったのにお気づきだろうか。そのきっかけのひとつとなったのが、清見保さんが経営するチェーン展開のイタリア料理店の登場だ。

父の亮介さんが経営する塗料店が移転することになり、祖父の代からの土地を人に貸そうという話が出たときのこと。「他人に貸すくらいなら、オレに貸せ！」と言い出したのが、それまでは亮介さんと一緒に働いていた息子の信保さんだった。「水入に大家であるならともかく、貸した土地からどうしてもらおうのみに立ち退き料を払う」ことでもなかった。それまで得た家賃より高いものになると人に教えられたこともあり、それなら自分で飲食店をやりたいと思ったんです。もともと接客業が好きだったこともあって、とうとう、このイタリアレストランをやりたいかっただんですね」と信保さん。

慢性的に生産過剰とされる塗料業界は斜陽産業だと見切りをつけたのも事実。これは父の亮介さんも認めるところだ。「以前は家業を継いでほしいという気持ちもありましたが、自分がやりたい仕事をやらせたほうがいいとも思いました。親の顔光を継ぐのは自分たちの代で終わりでいいでしょう。もちろん、資金面を全て最初は心配でしたが……」と亮介さんは語る。

が、父以上に飲食店の開店を危ぶみ、反対したのが商店街の仲間たちだ。「若い連中は食事をするなら横浜や平塚に出て行ってしまおう。こんな立地でスパゲティ屋をやっても絶対だめだ」との批判が集中したという。だが、信保さんの意志は固かった。

6か月間給料なし。 やめちゃうのかなとも 思ったよ。

いろいろな飲食店を巡って研究し、いつ行っても人がいっぱいいて、しかもおいしいと感じたイオン料理店。このチェーン店を開こうと決めたら準備がなかった。ところが、ここでさらなる難関があった。やはり立地の悪さが問題となり、チェリーの本舗からいったんは出店を断られたのだ。が、それでも信保さんはあきらまなかった。

「それで、ちよんとそのころオープンした鎌倉店へ研修に行くことになったんです。これが、かなキツかったですね。6か月間、休みなしで働いたのですが、研修だから無給しかも、ほかのスタッフとは違って、食事代も自分で払わなきゃならない。ひどいときはポケットに200円しかなくて、のどが乾いてもコーラも飲めない、なんてこともありましたよ(笑)」と苦笑しながら話す信保さん。

当時は毎日鎌倉へ通い、朝7時から夜11時まで立ちっぱなしの働きづめ。仕事が終わると小田原まで帰る電車で飛び乗るため、大船駅まで全力で走る日々だったとか。「慣れない



立ち仕事がつらくてね。やめちゃうおうかな、と思ったこともありましたがよ。本部のほうも、途中であきらめると思っていたみたいですよ(笑)。でも、やっぱり接客が好きだったんですね。がんばり通してしまえばいい。ふつうは開店日が決まってるから1か月ほどの研修をするもので、開店の日も決まらずに研修するのは例がないと、後で聞いて驚きましたけど。」

そんな生活の中、信保さんがあらためて感じたのは親のありがたさ。父の亮介さんは息子のことを案じ、信保さんの奥さんに自分の店にいたころの月給の5割ほどを毎月渡してくれていたという。

そしてついにスタートした信保さんのイオン料理店。そのオープン当日は亮介さん夫妻も大緊張。「お客が入っていきなったらサクラをやらねば」と5人待ちついでに店じまい。ところが、浦町に駆けつけてみると、何と客が行列して順番を待つ大にぎわい。それ以降もこの繁盛は続き、浦町にまた活気が戻ってきたのだ。

人の集うまちを、 受け継いでいるんです。

「一友、自分ひとりで商売を始めた信保さんはまた、父の亮介が身にしみてわかるようになったという。」

「祖父の時代は羽振りのよかった塗料業が次第に下り坂になってきたころ、「オヤジが悪い」と言われて貰った」ともありました。でも商売はへただけと本当に誠実なんです。それに父の世代は親の言うとおりで、枠にはめられてやるのになくて、つらいこともあったろけれど、父の新しい商売が心配で眠れない夜もあったはずなのに、それでも好きにやらせてくれるのもありがたいですね。父はそれぞれその責任をはっきりさせるため、またどちらかに何があっても大丈夫なように、互いの商売をままたくの別組織にしていく。信保さんを心配するお母さんは料理店の皿洗いを買って出たというが、それも亮介

さんが止めた。そこには仕事と金銭には厳しく、商人の威と呼ばれた祖父の精神が生きている。

「正直言って商売が失敗せずにいるから、偉そうに自分なんとも言えるのだからという信念も自信もありましたよ。以前に比べ活気が薄れていると言われている小田原駅前ですが、要はやり方だと思ってる。いろんな視点で考え、客を時ほうとする努力を続ければ人は集まってくる。小田原の街」を、私たちは祖父や父から受け継いでいるんです。客が来ないから早めに店を閉めてしまおうか、店が閉まるから客が来ないのか、どちらが正しいかわからない。商売をするなかで、こうした卵が先か鶏が先かといった問題はよくあると思う。でも、こうしときに、わからぬくらい何もしないのではなく、何かをする努力が絶対に必要です。父の時代は受け継いだものを充実させる時代であり、自分たちは受け継いだものを玉手して今の時代に合わせた展開をしていく、そんな中に生きていくと思うんです」と信保さんは語る。

塗料業は父・亮介さんの代で終わりを迎えるが、小田原商人の心意気はこうして脈々と受け継がれている。



海

に生きる

潮を読み山を見る父と魚探で魚影を追う息子
そして、二人を見つめる新しい世代



波の上でともに漁に励む原辰夫さん（61歳）と清さん（39歳）。辰夫さんは15歳、清さんは18歳で本格的に海に出た。遊漁船はごくたまにしか手がけず漁一本だ。今や小田原でも数少なくなった本物の漁師だ。互いに認め合う二人の思いとは、そして、そんな父や祖父の姿を見て育つ辰夫君と清二君の二人は…

やっぱの自分で
魚を捕るほうが
おもしろいや。

原辰夫さん、清さん父子は新潟したばかりの真新しい「辰清丸」へ装備の積み替えの真っ最中だった。二人の名から一字ずつ取った13トンの「辰清丸」は港でもひときわ大きく立派で、まぶしく目を引く。

父・辰夫さんの世代では一本釣りやもてりかほとんどだった小田原の漁業も、今では定置網漁が中心だ。原さん父子も毎朝必ず3時半に、定置網を締めるため船を出す。ときには伊豆諸島周辺へ2泊3日はとて一本釣りに出かける。頼まれて遊漁船をするほかは、漁に打ち込む毎日だ。「やっぱり遊漁船より自分で魚を捕るほうがおもしろいや。オレは子供のころから魚釣りが好きだったから。釣れるときは釣れる、捕れないときは捕れない。それが漁師のおもしろさだね。それに遊漁船は釣れないとお客に神経使うから。使ったからって釣れるわけじゃないだけだね」と笑う清さん。

魚釣りが好きだった少年は、漁をする父親の姿を見ていううちに、自然と漁師を継ぐことになった。今では海の上では、すべてが「あーうー」の呼吸、どちらかが「オイ」と言うだけで、何を取ってほしいのかがわかるという。父子であると同時に、海に生きる最良の仲間となった二人は、お互いのことを認め合っている。「オヤジを尊敬するのは、やっぱり仕事の技術。それに何より一生懸命やるところだね」と清さんが言えば、辰夫さんも、「息子は何かにつけて熱心だし、よくやってるよ」。

でも、
オレがまちがっていることも
あるんだけどね。」

だが、そんな父子も世代の違いによる考え方や仕事のしかたで衝突することもある。魚群探知機など機械を見て魚を追う清さんに対し、辰夫さんは今だに長年のカンを頼りに仕事を進める。辰夫さんは山と山の間隔を目で見て自分の位置を割り出し、かつて魚の群れに出会った場所を思い出す。晴れた日などは機械を使わずとも、そのほうが早いという。

もちろん潮の流れを読むのも重要だ。そんな昔ながらの父のやり方に時に清さんが文句を言う。魚の通る魚道とはしばしば変わり、昔釣れたところに魚が来るとは限らないからだ。だが、二人でどちらに船を進めるべきか対立したとき、折れるのはやはり若い清さんだ。「でも、オレがまちがっていることもあるんだけどね」と辰夫さんは笑う。

5年から10年ほどの周期で捕れる魚の種類が自然に変わり、最近増えてきたのはアジ。大島が噴火してから急に増えたのだが、おかげで以前はダイヤモンドのようによかったア

ジの値段も一気に落ちてしまった。アジだけできなく、最近、小田原魚市場でも全体的に魚の値段が安くなっている。これにはさまざまな理由がある、と清さん。魚の流通が昔に比べてすくよくよくなった。小田原の市場は地の魚が約30%と多いほうだけど、遠くからの魚もすいぶん揚がるようになったから釣り値も上がらない。それに携帯電話などが発達して、市場に入る魚の情報を事前にも知ることができるようにもなった。おまけに客も魚離れが進んでるから、魚の値段はどうしても前より安くなってきているんだよ。

「働く姿を見せておくことだね。
『継いでくれ』と
言うだけじゃだめだよ。」

だが、一時よりよくなったとはいえず、海の汚れは悩みのタネだ。一部のマナーの悪い釣り人やレジャーで海に来た人が捨てたゴミやビニール袋などが、定置網にかかるとも珍しくないとか。先日も老人会を海岸の清掃をした清さんは、大変なごみの量に驚いたという。清さんは「ないものごも言う。『それから忘れちゃいけないのが川、川が汚れたよ。昔はよく泳いだ川も、今じゃ汚くて泳げない。その川の水が流れ込むんだから海が汚れるのも当然だよ。』」

それだから、「海はみんなのもの」という考え方が強くなったね。それも「みんなのものだから、みんなで大切に」でなく「みんなの

ものだから私にも使う権利がある」と、権利ばかり主張する人も多い。前は船を操っている釣り人が遠慮してと魚が釣れない」と言われて、こっぴどく船主なんだ」とも。

そんな悩みの一方、清さんの長男で中学2年生の辰宏君が漁師を父と宣言してくれたのはうれしい出来事だ。清さんと同じく幼いころから海に親しみ、祖父と父の背中を見て育ってきた辰宏君もまた、自然に漁師を志すようになった。夏休み中は毎朝、一緒に定置網を締めに出かけていた。清さんは深刻な後継者の問題について、こう考える。「漁業などの第一次産業を子供に継がせたいと思ったら、小さいころから仕事を手伝わせたりして、親の働く姿を見せておくことだね。大人になっただけで『継いでくれ』と言うだけじゃだめだよ。』

いつごろ漁師になりたいかと思ったのか尋ねると「生まれる前から」と、ちゃめつけたぶりに答える辰宏君。市場にも一緒に行き「辰清丸」の今日の捕れ高に気を配るしっかり者の跡継ぎだ。一方、次男の章二君は「サツカー選手もいし、漁師にもなりたい(笑)」。辰清丸にこんな三代の日焼けした笑顔が並ぶ日もそう遠くはないはずだ。



「交流」で変わる！

21世紀の小田原

小田原市は現在、新しい時代のまちづくりを進める指針である新総合計画を策定中です。この計画案の特徴の一つは「交流」を通して小田原を発展させる、という考え方です。21世紀の小田原がどんなまちになっていくのか、この市長のインタビューを通して、思い描いてください。

変革の時代に

◆産業構造や社会、人々の価値観などが急激に変化している現在、国は新しい「全国総合開発計画」を策定中です。神奈川県も平成9年度から一かながわ新総合計画21」をスタートさせ、時代を先取りした施策を展開しています。私が小田原市でも新総合計画を策定していますが、その特徴的なものについてお話しください。

〈市長〉 国の新しい計画は、これまでのような東京を中心とした一極集中型の国土づくりではなく、個性的な地域間の「交流と連携」を重要視しています。また、県の計画でも、この県西地域を「緑化快速交流都市圏」として位置づけ、交流やネットワークづくりを大きなテーマとしています。こうした国や県の動き、世の中全体の流れを視野に入れながら、本市の新総合計画でも「交流」を最大課題の

交流のまちづくり 主人公は市民です

一つとしてとらえ、新しいまちづくりを目指しています。

◆「交流」を考えたまちづくりというと、外に住む人に目を向けた考え方のように思えるのですが、いかがですか。

〈市長〉 市民と行政が手を携えて毎日の暮らしを支えていく中で、小田原に暮らす人の心のためには、愛着と誇りが生じます。そのためには、小田原に暮らす私たちの生活や文化、環境を豊かにし、福祉、防災などを充実させる必要があることは言うまでもありません。そして、市民一人ひとりに、自分たちのまちという意識が高まることはおのずかと成長します。さらに、市民が愛着と誇りをもって小田原について語るようになっていき、市の外の人々にも小田原の魅力が伝わり、人が小田原に集うようになります。こうして「交流」は生まれます。

交流というと市外の人ばかりが大切にされるような気がするかもしれませんが、今述べたように、小田原のまちの魅力と人々の魅力を高めるためには交流は生まれません。こうした意味からも、交流によるまちづくりは、小田原に住み小田原に暮らす私たちの魅力を高めるということ、市民が主人公の考え方なのです。

世界にきらめく 「明日の1000年都市おたわら」

◆新しいまちづくりのキャッチフレーズが考えられているそうですが。

〈市長〉 千数百年前から都と東国との交流拠点になってきたまち、小田原。そして今こそが、思われた小田原の財産を生かして次の千年に向かうスタート地点なのだと感じ取っていただきたい、そんな思いから今回の新総合計画のキャッチフレーズを「世界にきらめく」「明日の1000年都市おたわら」と考えました。

このキャッチフレーズでは視野が大きすぎることを考える方もいらっしゃるでしょう。しかし、大きな視野として長いスパンの計画だからこそ、毎日の誠実で着実な努力が大切であると思います。そして、この積み重ねでまちの魅力は高まり、やがては交流が活発になるという意味から、新しいキャッチフレーズは「交流」にも連なると考えています。

◆人の集うまちをつくっていくということは、観光施策にも力を注いでいくということでしょうか。

〈市長〉 「思われた小田原の財産」「活性化」「交流」をつなげていくと、一番わかりやすい仕事として「観光」という言葉が浮かび上



■小田原城のある城址公園には年間250万人もの人が訪れる(上)
■小田原駅前設置された観光案内板(左上)
■東年4月にオープンする城址公園内の御門「あかがねもん」(左下)



「観光」と
がつてきま
す。

いとうと、
もすると、市政のなかではステータスの低い部分に思われてきました。しかし私は小田原において、観光は市政の大きな柱の一つになると考えています。観光事業に力を入れることは私たちが目指す「交流」に近づくことだ



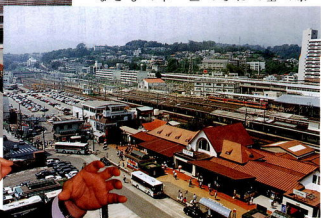
とも思っています。

人を集めて経済的な潤いを求めるだけでなく、歴史・文化・自然・環境という小田原の貴重な財産の一つひとつを磨き上げ、それぞれの放つ「光」を「観光」に集める。つまり人々を引き寄せる魅力あるまちをつくるのが、小田原が目指すところの「観光」なのです。

市政を進める中で、平成10年度を「観光元年」としたのは、市民も行政も新たな価値観をもつて小田原の魅力を高めたという思いが込められてのことなのです。



小澤市長



■広域交流の拠点となる小田原駅の東口(右)と西口(左)

広域交流拠点 「交流」に向けて変わるまち

◆「交流」のまちに向かって、ハド面での基盤整備はもうなっているのですか。

◆市役所「かながわ新総合計画21」では、小田原市は東西地域2市8町の中核都市として、また富士・箱根・伊豆という国際観光地をもつ山梨県・静岡県・神奈川県との広域交流拠点として位置付けられています。一方、従来から小田原駅前の活性化も叫ばれており、これら双方の観点から、小田原駅と駅周辺の再整備事業が一層その重要性を帯びてきました。現在建設中の栄町駐車場は、年末舗装を控えた12月初旬にオープンします。国道1号の無電柱化、城山から市役所に至る城山留比早川の拡幅工事と山手橋の掛け替え、青橋から早川に抜ける小田原早川線などの諸事業が今まさに進行中です。また、この秋には文芸館に新しい施設が、来年4月には城址公園内に「新」と「歴史体験施設」がオープンします。

小田原を箱根や伊豆に行くための単なる通過点から脱皮させ、またなかでの回遊性を高め、まちに多くの交流が生まれるために、小田原駅周辺の再整備事業は重要な課題なのです。

平成の城づくり 小田原駅西自由連絡通路

◆交流の中心地となる小田原駅の整備計画は、どのようになっているのでしょうか。

◆市長 特に市民の皆さんの要望や関心も高く、市の個別政策の最大課題でもある小田原駅東西自由連絡通路の建設着手が、いよいよ視野に入りつつあります。自由連絡通路というのは小田原駅の東口と西口を自由に行き来できるだけの単なる通路ではありません。橋上通路という形で進めら

れており、駅舎や改札も橋上の上がるよう計画されています。つまり、プラットホームの上に通路があり、改札を抜けてホームへ行くには階段を降りることになります。これにより小田原駅の機能や風景が一変し、まちのイメージも大きく変わっていくでしょう。

また、通路の建設は、東西駅前広場の整備、周辺商店街の活性化、お城通りの整備などといった「交流」を促進する事業への大きな第一歩にもなるのです。通路の建設が単なる駅施設の整備に止まらず、駅周辺に、そして小田原のまち全体へと広がる「交流」を考えた基盤整備していったことだと思います。

私は東西自由連絡通路を、新しい世紀へ向かうための「平成の城づくり」と考えています。それだけ重要性の高い事業だということです。

今、市と鉄道5社との長年にわたる信頼と協力に加え、県の支援もいただけることになりました。近いうちには市民の皆さんに具体的なお話として発表できると考えています。

人が財産

◆「交流」でのまちづくりの中で、市民一人ひとりとしては、どういったことを心がけていけばいいのでしょうか。

◆市長 小田原の三大財産を私は、歴史・文化、自然・環境、そして「人」だと思っています。まちの主役は市民です。市民が本来もっているパワーを発揮して、「先人のつくってきたまちをさらによりよいまににつくりあげていこう」という意識こそがすべて出発点であり、礎だと思っています。

「変わったね」「小田原」と言われるような新しい魅力をもったまちにするためには、「人が変わる」ことだと考えています。

海と道から見る小田原

浮世絵に描かれた小田原を読む (二)

浮世絵は江戸時代に起こった風俗画で、歌舞伎の登場人物や歴史上の出来事、当時の人々の生活の様子が描かれています。小田原をめぐる伝説や小田原に住む人々、小田原を通過して東海道を旅する人々の姿も……浮世絵を見ているだけで小田原が歴史あるまちであることを実感できるのではないのでしょうか。

今回は、「東海道」の中の二つの文字「海」と「道」を切り口に、小田原を題材にした浮世絵版画(木版画)を紹介しします。また、浮世絵だけでなく、江戸時代末期に小田原の沖合いからペリーの黒船が見た小田原の石版画(リトグラフ)も併せてご紹介しします。「タイムマシン」に乗って、小田原の歴史散歩をどうぞ！

(資料協力: 岩崎栄純 文・構成: 広根弘隆)

足柄古道 …小田原への古い道

足柄古道は、千年以上も昔から、小田原エリアに至る主要な交通路の一つで、中世以降は湯坂道、江戸時代には東海道と、小田原が発展するにつれ、小田原へのアクセスルートが増えてきました。

はじめに、足柄古道(こ)を頭の中に置いて、下の作品(1)をご覧ください。

小田原のすぐそばにある足柄山で、木の上から熊を投げ飛ばした金太郎の様子を、馬に乗った男たちが眺めている絵です。落ちた熊がどうなっているのか少し心配になりますね。眺めているのは源頼光という。ひととき堂々とした武将が頼光です。熊を相手に遊んでいる金太郎に才能を見いだして、金太郎に坂田公時(さんとき)という名を与え、頼光の家来にスカウトするきっかけになったシーンとされています。

そして、この頼光たちが京都に上る途上で利用したのが、当時都であった京都と小田原を結んでいた足柄古道だったのではないかと言われています。

金太郎は伝説上の人物ですし、この絵にしても、浮世絵師が自らの想像力で組み立



▲①歌川芳男(よしかず) : 「源頼光(よりみつ) 公足柄山にて坂田金時を抱きたまふ因」安政4年(1857)

てた情景です。それにしても、一枚の浮世絵の中の空想的な出来事であるにせよ、足柄古道という「道」がなければ、金太郎が頼光たちの一行と出会うこともなかったこととしてしまう。このように、道とは、物や情報や人が行き交い、さまざまなドラマや出会いのある場所だ、と言うことができるのではないのでしょうか。その道という観点から、さらに小田原の歴史を読み進んでみましょう。

東海道

東海道は江戸時代に整備されました。江戸と京都を結ぶ街道で、存じのよう

に小田原も東海道の宿場町の一つでした。「東海道」ではなく「東海道」といふだけなら、大磯から小田原までの東海道は、ゆるやかに弧を描く海岸線に沿い、人々に美しい海沿いの景色を見せていたようです。この②は広重の作。この作品には小田原の街並みも東海道も見えませんが、小田原を描いた浮世絵には、北原の③のように小田原城のあるものも見られるのですが、城や街ではなく海や川(け)の作品も意外に多いです。皆さんが小田原を絵はがきや写真にするとしたら、自分にとって印象的な場所を選ぶのではないのでしょうか。同じように、小田原という、当時の人は小田原の手前にある酒匂川の渡し。当時は橋がなく、水が増えるとか何日も川を渡るころができませんでした。旅の思い出として思い浮かべたり、街に至るまでの美しい海岸線などを連想したのではないのでしょうか。

何かよく似た絵組みのもの(作品④⑤⑥⑦⑧)を並べてみます。いずれも歌川広重の作品が二代広重の作品ですから、同じ作者、同じ流派のものが似ているのは当然かもしれません。

▲⑤歌川広重: 「東海道 五十三次之内 小田原 酒匂川かも渡し」(行喜東海道 天保後期(1837-43))



▲⑥歌川広重: 「五十三次之内 小田原 酒匂川」嘉永年間(1848-53)

▲⑦葛飾北斎: 「小田原 外郎売」享和-文化初年(1802-07)



▲⑧歌川広重: 「五十三次・小田原・酒匂川」(鎌倉東海道) 弘化4-嘉永5年(1847-52)



▲⑨二代広重: 「東海道 小田原」慶応3年(1867)



▲⑩歌川広重: 「東海道五十三次・小田原」(狂歌東海道) 天保後期(1837-43)



▲⑪歌川広重: 「五十三次名所交絵・小田原海岸海倉」安政2年(1855)

それにしても、みんな同じような景色です。ね。名物や名所というのは大体同じような構図となるのですし、人気があるものは何度もコピーされるというのは昔も今も変わりませんから、似たような作品がたなくさんあるのかもしれない。しかし、どの作品も小田原の歴史を静かに語ってくれる名品であることに変わりありません。

歴史も道を行く

作品⑨は14代将軍徳川家茂（いえもち）が、皇女和宮との結婚の報告のため文久三年（1863）に京都に上洛するときの光景です。当時の小田原の街並みが精細に描かれています。この「御上洛東海道」を扱った作品にはもう一点、二代広重のものが



▲⑨二代広重：「東海道 小田原」
文久3年(1863)



▲⑩歌川国綱：「東海道 小田原」
文久3年(1863)



▲⑪東洲勝月：「米船渡来旧諸藩士團之図」明治22年(1889)



▲⑫ウィリアム・ハイン：「小田原湾」(日本遠征面帖) 1856-58年

浮世絵をホームページで公開中

小田原市ホームページ（インターネット）では、ここで紹介した浮世絵情報を解説と画像付きで紹介しています。ここで紹介できなかった作品も順次紹介する予定です。現時点では「石橋山合戦」「佐奈田守一と保野五郎」の二つをテーマにして作品を紹介しています。アドレスはページ下。

☎ 広報広聴課 ☎ 33-1264

「よかった」の声を届けて

「浮世絵に描かれた小田原を読む」は今回が第2回目になります。当初は2回目を行う予定はなかったのですが、「よかった」「もう一度」という多くの声をいただき、この2回目が実現しました。皆さんも、「よかった」と思ったときは、ぜひその気持ちを市の職員に届けてください。市（行政）には「ダメだ」「悪い」という声はよく届くのですが、「よかった」と声を届けてくれる方はごくわずかです。

苦情だけでなく、よく思ったことも伝えていただくことが、行政の判断基準を明確にし、よりよいまちづくりへと結び付きます。

ところ、作品⑩は、黒船来航により海岸警備にかり出された各藩の藩士の様子です。市郷土文化館には、小田原藩士が当時の黒船を観察した記録が残っています。そうした歴史の事実もさることながら、右のトリグラフと左の浮世絵版画（木版画）で、同じ黒船や波をどのように表現しているかを見比べてみるのもおもしろいと思います。

⑩は浮世絵ではなく、⑪と同じ時代の日本の海岸風景を絵にしたりトリグラフ（石版画）です。アメリカ海軍提督ペリーが「黒船」から見たであろう江戸末期（1853年）の小田原を描いた作品で、ペリーの遠征記録にある図版の一枚です。日本の開国を迫ったペリーも、船の上からしっかりと小田原を見つめていたのです。

⑫は浮世絵ではなく、⑪と同じ時代の日本の海岸風景を絵にしたりトリグラフ（石版画）です。アメリカ海軍提督ペリーが「黒船」から見たであろう江戸末期（1853年）の小田原を描いた作品で、ペリーの遠征記録にある図版の一枚です。日本の開国を迫ったペリーも、船の上からしっかりと小田原を見つめていたのです。

ペリーは海から小田原を見た！

あります。これは海岸沿いの松並木を京都方向に向かう将軍家茂の行列を海側から見た構図になっています（作品⑩）。実際に海から行列を見るわけはございませんから、当然作者が劇的な効果をねらって構成した景色なのでしょうが、それほど小田原の松並木と海の美しさは印象的だったことになりませぬ。



▲⑬歌川国芳：「石橋山合戦」
天保中期（1834-1839）

作品⑬は8月1日号で紹介した、12世紀に市内の石橋山を舞台に繰り広げられた「石橋山合戦」での、佐奈田守一と保野五郎の組み討ちを題材にしたものです。今回はこの二人ではなく、背景の海と富士山に注目していただきます。どこかで見たことがあるとは思いませんが、そう、葛飾北斎の「富岳三十六景」の波と石と似ていますね。小田原を描いた浮世絵には海や松が頻りに登場したのと同様、富士山が登場することでもたくさんあります。江戸時代から明治時代にかけて、小田原は海のあるまちであり、富士山が美しく見えるまち、あるいは富士山の近くから見ると、というイメージがもたれていたようです。そのため小田原という場所を表現しようとするときには約束されたかのように富士山や波が添えられたのではないのでしょうか。

～あらためて知る 郷土の偉人～

二宮尊徳

その人と教え

小学校でよく見かけた金次郎さんの銅像。全国的にはその数は減っているようですが、生誕の地、小田原ではまだまだたくさんの銅像があります。報徳と呼ばれる思想、またその仕方は、変化の時代、教科書のない時代などと言われる現代にあって、あらためて見直されています。でも、なぜ、また注目されているのでしょうか。その思想をもう一度勉強してみましよう。



栃木県今市市にある二宮尊徳像。尊徳の生誕の地小田原市と終えんの地今市市は姉妹都市を提携しています。今市市では11月3日(祝)に日光街道杉並木まつりが行われ、一般募集による二宮尊徳像行列などが催されます。本市からは、小田原ちょうちん踊り保存会の菅さんが参加します。

■今市市観光協会 ☎0268-21-5170

尊徳は、幼少から大変読書が好きだが、貧しい家に育ったので、正規の教育を受けたわけではなく、天地自然に直面し、あるいは日常生活の中から真理を学んだのだ。どんな書物に書かれていることでも、実際に照らして「なるほど」と納得しなければ真理とは認めなかった。こうして習得したものが、大変独創的な思想として形成されていったのだ。

【報徳】

一般に徳とは、節操・品格・人格等道徳的な意味で用いるが、尊徳はもっと広い意味でとらえ、特性・特徴・長所美点・持ち味・とりえ・能力なども徳とした。彼は「万有に徳あり」とか「天地人三才の徳」といって、宇宙間すべてのものに徳があると云っている。人間だけでなく、鳥獣虫魚、山川草木、あるいは火水風月、机にも紙にもみな固有の徳がある。こう考えたと、効用・ありがたいところ・役に立つところ・良さなども徳である。私たちはその徳のおか

現代に通ずる報徳と呼ばれる思想



幼少読書像 勤勉の象徴になった最もポピュラーな像。14の小学校、報徳二宮神社ほか



権謀の像 病気の父に代わり村の使役に出たとき、おとなの役に立つようわらじを作って産し出す姿。報徳小学校、早川小学校

報徳博物館 斎藤清一郎



嗣村の像 尊徳記念館



成人正産像 新幹線おだわら (西大友130)



蘭語読書像 豊川小学校、桜井小学校



少年読書の像 報徳保育園 (善栄寺境内)、報徳博物館

【天道と人道】

普通、天道は絶対なるもので、その天道に反しないようにするのが人道だとしている。ところが、尊徳はこの二つをほぼつきりと区別している。天道は自然の道であるから、作物も雑草も差別なく育てるが、人道は人間の生きるための営みであるから、雑草はだめなものとして抜き、作物は善として育てる。また、知恵と力と、そのものの良さやとりえを生かして、人間に役立つものを作っていく、それを怠るとたらまらだめになってしまう。田畑も荒れ地になってしまふ。そこで、生え

尊徳祭10/18(土)・19(日)

今回は第40回を記念して栃木県二宮町から尊徳太鼓保存会を招待して小田原の仙了太鼓、報徳太鼓と競演します。

当日は、尊徳記念館展示室を無料一般公開します。

交通案内 尊徳記念館へは小田原駅から栢山方面行バスで尊徳記念館前下車・小田急線で富水駅または栢山駅下車徒歩約15分

☎ 尊徳記念館 ☎ 36-2381

■尊徳講演会

「21世紀に活かす尊徳の思想」

講師 報徳博物館長 佐々井 典比古さん

10/18(土)14:00~15:30

定員 200人

10/1(水)から尊徳記念館に直接、電話またははがきで

〒250小田原市栢山2065-1

小田原市尊徳記念館 ☎ 36-2381

■ビデオ上映とお話「二宮金次郎」

10/18(土) <1回目>10:00~11:00

<2回目>12:30~13:30

10/19(日) <1回目>10:00~11:00

<2回目>14:30~15:30

■報徳市（農産物直売ほか）

10/19(日)11:00~16:00

■和太鼓競演

10/19(日)11:00~12:30

■吹奏楽演奏会

10/19(日)12:30~13:00

■演芸会

10/19(日)13:00~16:00

■大型紙芝居と人形劇

10/19(日)13:10~14:00

■茶会

10/19(日)13:00~16:00

■手作りおもちゃコーナー～竹細工～

10/19(日)13:00~16:00

小学4年生以上60人 当日先着順

■手作りおもちゃコーナー～紙細工～

10/19(日)14:15~16:00

小学1年生以上60人 当日先着順

■俳句大会

10/26(日)13:00~17:00

受付付けは10:00~12:00

会費1,000円（軽食付き）

あすなる俳句会 大野西湘子 ☎ 36-2319

■その他 尊徳アマチュア無線クラブ
交友会、墓前祭、尊徳マラソン大会
など

【道徳・経済一元論】

日本人は、人道を尽くして経済大國になったが、一方、道徳の方はどうでしょうか。

尊徳は、道徳と経済が調和し、融合した社会の実現を目指した、そして実践した。だから彼は、各地の再建・復興計画書（仕法書）の

中では、あらゆる数値を使って計画・手段を示しながら、それを実行していくのに必要な道徳や心構えなどを必ず説いている。ときには訓言に代わって道歌であったりもした。

彼は「道徳の伴わない経済は犯罪に結び付き、経済の裏付けのない道徳は寝言に等しい」と言っているが、昨今の政財界やお役人はたまたま金銀・証券界の不正や犯罪が報道されるたびに、この言葉を思い起こすのであろう。

【一円観・一円融合】

成田山で新盆祈誓した尊徳は「どんな人間にせよ心か良さがあっても、どんなに反対する者でも排除しないで活かして、いこう」という一円観に到達した。その一つの円の中に納まり、渾然一体となることを「一円融合」という。

世の中には、善悪・強弱・明暗・貧富……対立と対照となっていくものが多い。彼はこ

れを一つの円の中に入れ、一方があっても他方も存在するという考えを、万物の見方の根本とした。

現在、世界各地で、民族・宗教・思想・政治上の対立・相克が絶えないが、皆が相手の立場で考えるという一円観に立って、一円融合する世界こそ、尊徳の目指した報徳の世界の中に入っているのだから。



報徳博物館（南町1-5-72 ☎ 23-1151）開館9時～17時
休館水・土曜・祝日 日の曜日 料金大人200円子供100円

この年（1836年）は天保不順が続き、作物が大凶作であった。農民は路頭に迷い、各地で餓死者が後を絶たせて、小田原藩主の大久保忠貞（幕府の老中筆頭で江戸に在勤中）は、農民救済を命ずるため、桜町（現栃木県二宮町）で指通中の尊徳を呼んで、まず、尊徳の神を下賜した。すると、尊徳は言った。「一刻の猶予のない飢民救済に米をくださるのことが思いついたら、神を御礼にして飢民に与えても命は救われません。すぐに救済米をください。それを聞いた忠貞は「二宮の言葉は古今の金言じゃ。小田原の米蔵を聞いて使え」と命じた。尊徳はすぐに小田原に来て、米蔵を開いて救済の準備をしようとした。すると藩の役人が「江戸に使いを出して確かめるから待ってほしい」と言う。尊徳は

尊徳こぼれ話 一その人柄を知る



言った。「江戸への往復に数日かかります。使いが帰ってくるころには百姓は飢死したにしまつても遅いませぬ。どうでも待てということなら、皆で断食して待ちましよう。今、百姓は米一粒食んでないで待つのは当たり前です。私たちは死も覚悟で待つのは当たり前でしよう。尊徳の声は雷のような大音聲であった。藩の役人たちは尊徳の道理に逆らえず、米蔵は開かれた。ただちに尊徳の指示で藩内にもなく救済の手が差し出された。そのとき、配られた米1266960石。救われた人4万3900人。このようにして先祖は餓死を免れ、今の私たちの手ではないか。尊徳は、命の恩人である。

尊徳記念館館長 川瀬明徳

歴史街道 小田原を愛した人々⑧

小田原文学館館長 三津木國彦

茶道の振興と古美術公開の場となった

老櫛荘(黄梅庵)と松永記念館

松永安左衛門(耳庵)

昭和21年11月、市内板橋の富士山のふもと(板橋33番地)に建設された新宅(老櫛山荘)に、電設王・電力の鬼と言われた松永安左衛門(耳庵)が、冬の寒さ厳しい「柳瀬山荘」から移り住んだ。

松永安左衛門は、明治8年(1875)12月1日、長崎県志岐郡石田村(現 志岐郡石田町)で素封家の嫡男として生まれた。幼名は亀之助、後、三代目安左衛門を襲名した。

慶応義塾を卒業後、明治32年(1899)福岡通商の勧めで日本銀行に入社、翌年退社し、石炭販売の福松商會を創設した。明治32年(1909)福岡電気軌道の専務に就任し、電気事業にかかわる。以後、九州電気、九州電灯鉄



▲昭和40年3月老櫛荘にて

道、関西電気に役員として参画し、電気事業の統合を推進。後、東邦電力、東北電気、新潟電力などの社長として電気事業の発展に尽力した。

第二次大戦後、電気事業再編成審議会会長としてGHQ(連合軍総司令部)をはじめ政財界を相手に大活躍をし、さらに昭和31年には産業計画会議議長として経済再建の数々の勧告を発表した。また、昭和38年(1963)には、電力中央研究所理事長に就任し、電力事業の向上に尽力した。この間、昭和初年には埼玉県入間郡柳瀬村(現 所沢市)の柳瀬

一部庭石を除いた、約1万坪の土地と建物と300点を越える古美術品は、そっくり東京国立博物館に寄贈された。

小田原に移ってからの25年間には、前述のように東奔西走の毎日であった。しかし、そのような繁忙の



▼昭和36年夏 池田勇人元首相来訪

中でも、黄梅庵ではしばしば茶会が開催され、近藤外吉(平心庵)、山本茂雄(雁門)氏をはじめ、招かれて晩餐となつた人も数多かつた。また、収集された古美術品を一般に公開し、広く愛好者に親しんでもらおうと、昭和34年財団法人松永記念館を創設。ここでは毎年春・秋に展示が行われ、各地から美術愛好者が訪れていた。

電力の鬼、不世出の大人物と言われた耳庵、松永安左衛門も、昭和46年6月16日早朝、77歳の天寿を全うした。

耳庵の没後しばらくして、美術品は多くは福岡市立美術館に寄贈され、現図は文化庁へ寄贈された。茶室「黄梅庵」は今井宗久ゆかりの里帰り宮贈りされた。小田原市では松永安左衛門を郷土文化館の分館として展示会などに活用している。



▲昭和43年11月 中曾根康弘氏(後首相)来訪

松永記念館特別展 「松永耳庵 老櫛荘の日々」

今年、特別展開催第30回目を記念し、松永記念館の創設者である松永安左衛門(耳庵)が老櫛荘や黄梅庵の茶会で使用した普段使いの茶道具などを通して、「耳庵の茶のこころ」を紹介します。

また、期間中は「松永耳庵 老櫛荘の日々」の図録も販売します。
日時 10月25日(土)～11月9日(日)
午前9時～午後5時(10月27日は休館)
お茶席の利用を
特別展開催期間中の土・日曜と祝日には、小田原茶道連盟が茶席を設けます。
時間 午前10時～午後3時
茶券 一枚500円(お菓子付き)
〒郷土文化館 ☎23-1377



松永耳庵

こんにちは 市長さん 市民の声の直通便

市長に寄せられた 一枚のがきで 大きな歴史的発見！

広報おだわら8月15日号でお知らせしたとおり、石垣山一夜城跡で「加藤肥後守（かとうひのぶ）のかみ」の刻印が発見された。豊臣秀吉の重臣で肥後守と名乗った加藤清正が一夜城の工事にかかわって

いたのか、それとも江戸城の建築のために石を運び出した目印か、などさまざまな解釈ができる。一夜城に関しては残存する史料が乏しい。ナゾに包まれている石垣山のロマンを解く「カギ」になりそうな発見であった。

この発見のきっかけは、飯泉在住の小長谷三郎さんの「こんにちは、市長さん」市民の声の直通便」



「いただけは幸いに存じます。」

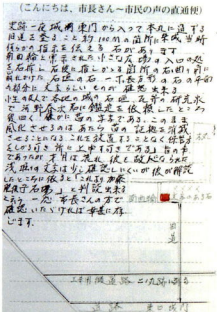
さっそく現地調査「あつた！」

市担当者が胸をときめかせながら、小長谷さんの案内で現地を調査すると、確かに「此石かき 左右 加藤肥後守 石場」と掘られていた石があった。

今後、刻印が清正の自筆か、何のために刻印したのかなど、史実は明らかになっていくであろう。まさに市民の情報が勝ち取った貴重な発見であった。

「こんにちは、市長さん」によるまちづくりに関するご意見・ご提案をお待ちしています。市内公共施設などに置いてあります。

☎ 広報広聴課 ☎ 33-12663



小田原と私

小田原に来て11年目になりました。初めて小田原に移り住んだときは、母国韓国のソウルに比べ、とても田舎だと思いましたが。現在は、かえて東京・横浜といった都会から小田原にもどるとはっします。小田原のまちはとても魅力的で、特に酒匂川花火大会をはじめ、夏の行事には、毎年感激しています。今世界では、若者をはじめ新しいもの、珍しいものを追い求める傾向が強いけど、小田原の伝統や文化を次の世代までしっかりと守り伝えようとしている姿勢には好感がもてます。住んでいる南鴨宮は、交通や公共施設・ショッピングなど、生活圏としてとても満足しています。

小田原の人と私

小田原の方は親切だけど、外国人に対してすぐ家族構成・来日理由・結婚したいきさつなどを聞いてきます。プライバシーのことはあまり聞かれたくないですね。外

ワンダーランド

「海外からの小田原市民」

澤善美さん
(南鴨宮在住・ソウル市出身)



国から来た方と知り合う機会があったときは、まず自分のことから話し、打ち解けた後に相手のことを聞いた方がよいですよ。

小田原でたくましくなりました

日本に来てからは、韓国の「精を食べたければ自分で取って食べなさい」ということわざを座右の銘にしています。

求めるもの、自分からやりたいことは、待っているだけではいつまでもたってもでき

ません。それだけ、外国で生活するということは、たくましさが必要とされるということなのです。

今の私とこれからの私

現在、子ども会で班長をやり、地域でごみのルールを守れない方には声を大にして注意しています。生まれた国や顔が違っていたって、小田原市民ですものね。

これからはもっともっと勉強して、子供に日本のことも教えられる母親になりたいですね。

善さんは、現在料理を通して世界の文化を学び、交流を広げている「世界の家庭料理教室」の講師・スタッフを務める。母国の「キム・パ」（韓国風太巻きで日本のおにぎりのようなもの）はおいしいので、ぜひ多くの人に教えたいとのこと。母国に誇りを持ちながら、日本人（帰化）となり、熱く小田原について将来の夢と希望を語る口調は、本当に積極的。始終見せるさわやかな笑顔の中に光る、本音を語るときの真実なまなざしは、説得力十分であった。

市立病院の臨時職員

職種 看護婦・准看護婦、薬剤師、理学療法士、作業療法士
勤務時間 看護婦の夜間勤務専門(病棟)は準夜勤=午後4時~午前0時30分・深夜勤=午前0時~8時30分(応相談)
賃金 市立病院の基準による
病院総務課 ☎34-3175内線604

市立病院の薬剤師

採用人員 1人
採用日 平成10年4月1日以降
受験資格 昭和46年4月2日以降に生まれた方で、平成10年春に薬剤師の免許取得見込みの方、または薬剤師の免許を取得している方
試験日・場所・内容
 ○第一次試験 11月16日(日) 市立病院・筆記(専門科目、小論文)
申込 10月13日(月)~31日(金)(土・日を除く)に採用試験申込書、卒業(見込み)証明書、成績証明書を書き市立病院病院総務課に直接または郵送で(31日必着)
 ※申込書は市立病院病院総務課にあります。
申込 〒250小田原市久野46 小田原市立病院病院総務課 ☎34-3175内線604

お知らせ

市・官公庁からのお知らせ

総合計画審議会を公開

小田原市総合計画審議会は、市長の諮問を受けて、策定中の新総合計画案を審議しています。この審議会での総括審議の内容を市民の皆さんに公開します。
日時 10月31日(金)午後1時30分~5時
場所 市役所7階大会議室
定員 50人・先着順
申込 10月13日(月)~24日(金)に企画政策課 ☎33-1253

10月14日~20日 違反建築物防止週間

全国一斉にパトロール
 建築指導課 ☎33-1433



10月 4日(土)~9日(木)
 事業課 ☎23-1101

炎の匠・小田原鑄物を発刊

砂張(さはり)で有名な小田原の鑄物業は、今からおよそ460年前の室町時代に始まり、政治・権力・経済の荒波にもまれ、時代を越えて今も小田原の地に根づいています。
 「炎の匠・小田原鑄物」は、優れた小田原の伝統技術を多くの方に紹介するため、県立城北工業高校の先生が調査研究し、まとめたものです。新宿御苑の鐘や黒沢明監督作品「赤ひげ」に使われた風鈴が小田原鑄物であったなど、あまり知られていないことも取り上げています。
価格 1,000円
販売 市内の書店や県内の主だった書店
広報 おたわらの読者に抽選で20冊をプレゼント
 ご希望の方は、はがきに、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・今号でよかった記事を書いた10月15日(水)(消印有効)までに送付。
 ※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。
申込 〒250小田原市萩窪300 小田原市役所庶工課 ☎33-1515



小田原の文化財③ 多古白山神社の小田原囃子

(県指定無形民俗文化財)
 今日もどこからか祭りがばやしの音が聞こえてくる秋の季節です。
 小田原囃子は、江戸祭囃子の葛飾系に属し、江戸時代に小田原に伝えられたと言われています。そして、その音曲には、古くからの伝統が守られた、変化に富む独特の風格があります。
 はじめは、多古白山神社のお祭りで奏でられていましたが、現在では、市内をはじめ足柄平野の各地のお祭りで奏でられています。
 今年も10月9日(木)・10日(祝)の多古白山神社のお祭りでも、その哀愁ある調べを聞くことができます。



文化財保護課 ☎33-1717

市民相談

October
10月

①一般相談	土・日・祝日を除く毎日
②防災相談	午前9時~午後4時
③法律相談(予約制)	1日(水)・8日(水) 15日(水)・22日(水) 午後
④税務相談	21日(火) 1時30分
⑤宅地建物取引相談	23日(木) ~3時30分
⑥登記相談	9日(水)
⑦心配ごと相談	6日(月)・13日(月)・20日(月) 27日(月) 午後1時~3時30分
⑧人権擁護相談	14日(火)・28日(火) 午後1時~3時
⑨行政苦情相談	16日(木)午後1時~4時
⑩教育相談	3日(金)・17日(金)・24日(金) 31日(金) 午前9時~11時30分
⑪消費生活相談	3日(金)・17日(金)・24日(金) 午前9時~午後4時
⑫建築相談 (商業施設など・予約制)	2日(木)午後1時30分~4時
⑬宅地建物法律相談 (予約制)	17日(金)午前10時~午後3時

問い合わせ
 市民相談室
☎33-1383

無料調停相談

日時 10月21日(火)午後1時~4時
場所 市民会館
 小田原調停協会 ☎22-6186 (民事)、
 22-6586 (家事)

10月12日~18日は行政相談週間

国・県・市に対して言いたいことを行政相談委員が伺います。
 行政苦情相談は相談員の自宅でも行なっています。
行政相談委員(敬称略)
 岸忠義(小竹1,888 ☎43-0956)
 吉本壽夫(酒匂2-25-21 ☎47-8248)
 小山公一(栄町3-10-1 ☎22-5754)
 安藤裕子(南町3-1-56 ☎22-3521)
市民相談室 ☎33-1383

こどもの行事

クイズとゲーム

小田原城のナゾをさぐれ!!

日時 10月25日(土)午前9時～11時30分
場所 小田原城天守閣
対象 小学1～6年生・60人・先着順
講師 図書館児童文化専門委員
申込 10月7日(火)から、
市立図書館 ☎24-1057

募集

人員、作品、参加者の募集など

来年度の幼稚園・保育所の入園・入所者

■市立幼稚園

応募資格 次の①～④すべてに当てはまること

- ①平成5年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた幼児(4歳児)
- ②入園を希望する市立幼稚園の通園区域に住んでいるか、来年3月31日までに住む予定の幼児
- ③公私立保育所・私立幼稚園などに在園していない幼児
- ④公私立保育所・私立幼稚園などに入園願書を出していない幼児

入園願書 10月15日(水)～21日(日曜日を除く)の午前9時～午後4時(18日は正午まで)に、入園希望の市立幼稚園で配布受付 11月1日(土)午後1時～3時と、2日(日)午前9時～11時に、入園希望の市立幼稚園で受け付け

入園者の法定 募集人員を超えたときは、抽選。応募資格に虚偽の申告をすると、入園許可の取り消しになることがあります。

■入園を希望する市立幼稚園

■私立幼稚園(県公認)

- 応募資格
- ①平成6年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた幼児(3歳児)
 - ②平成5年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた幼児(4歳児)

入園願書 10月15日(水)から入園希望の私立幼稚園で配布(県内私立幼稚園関係団体で募集時期を統一しています)

受付 11月1日(土)から入園希望の私立幼稚園で受け付け

■入園を希望する私立幼稚園

■保育所

入所条件 保護者(同居の親族も含む)が次の項目のどれかに当てはまること

- ・昼間、家庭の外で働いている場合
- ・昼間、家庭内で児童と離れて家事以外の仕事をしている場合
- ・妊娠中や出産して間もない場合

- ・病気やけがをした場合や、精神や身体に障害がある場合
- ・同居の親族が長い間、病気にかかっていたり心身に障害があって常に介護している場合
- ・地震や火災の災害の復旧にあたっている場合

■幼稚園

施設名(定員/学区)	所在地	電話番号
酒匂幼稚園 (185人/酒匂・富士見小)	酒匂6-8-26	47-3661
東富水幼稚園 (120人/富水・東富水小)	中曽根355-5	36-3606
前羽幼稚園 (50人/前羽小)	前川510	43-0831
下中幼稚園 (120人/下中小)	小船174-1	43-0612
矢作幼稚園 (加入/下中・矢作・豊川小)	矢作231	48-4515
緑穂幼稚園 (40人/塚井・緑穂小)	柳新田129-3	37-0585
新玉幼稚園 園童幼稚園	栄町4-6-5	22-4060
鶴宮幼稚園 こゆるぎ幼稚園	城内2-16	23-2958
城山幼稚園 富水幼稚園	上新田130	47-4251
花園幼稚園 みみづき幼稚園	永瀬387-5	42-5667
友愛幼稚園 れんげ幼稚園	城山2-1-3	34-2800
	藤田92	36-2641
	南町2-2-45	22-8702
	城山4-19-8	22-2098
	北ノ窪176	35-1512
	東町3-12-23	34-4538

■保育所

施設名	所在地	電話番号
下曽根保育所	曾根347	42-0951
曾根保育所	下大井104	42-2852
上府中保育所	千代694-1	42-1642
曹川保育所	成田654-5	36-4754
江之浦保育所	江之浦328-1	29-0271
石橋保育所	石橋186	22-2648
早川保育所	早川2-3-13	22-2710
桜井保育所	曾比2183-2	36-0710
城山乳児園	城山2-1-5	34-3227
小田原児童園	浜町1-4-38	22-3030
小田原乳児園	浜町1-2-15	22-3030
クレオンの森保育所	板橋544	24-1352
足柄保育所	原町2-17-2	34-2528
みゆき堂児童園	本町4-6-18	22-3722
中島保育所	中町2-13-48	22-4359
みどりの家児童園	中町1-15-11	23-2896
山王保育所	東町1-30-30	34-0380
久野保育所	久野1550	35-2253
五百羅漢保育所	原町5-7-35	34-3247
榮田児童園	蓮正寺783	36-1914
秋保保育所	秋保542-5	34-4596
国府津保育所	国府津3-11-25	47-3355
石塚保育所	国府津2769	47-3367
おおとり保育所	酒匂6-6-30	49-4127
城前保育所	曾我谷津592	42-0140
富水保育所	松山1946	36-0531
西大友保育所	西大友485-2	36-4378
下府中保育所	中里164	47-8294
春光保育園	鶴宮444	48-5161
鶴穂保育園	松山880	36-0272
たんぽぽ保育園	府川139-2	35-6505
桃重保育園	小八幡4-1-13	48-6770

- ・場合
 - ・市長が認めた場合
- 申込方法 申込用紙の受け取りや提出は、児童福祉課(市役所2階)または入所を希望する保育所で。なお、入所理由は、後日の面接時にお聞きします。

ON AIR

■テレビ東京(12ch)

「出沒!アド街ック天国」
10月11日(土)21:00～21:54
小田原の魅力を取材。番組の最後に小田原のCMを完成します。

■小田原ケーブルテレビ(9ch)

「ワンダーランド」
市内の出来事や行事などを紹介
毎日、12:00～、17:00～、22:00～

■ラジオウエスト(1485KHz)

「SAY-SHOW倶楽部」15:05～15:30
10月13日(月)「北原白秋と小田原」
14日(火)「二宮尊徳の遺したものと」

広報広聴課 ☎33-1261

住宅用地と工業用地を公売

市が造成した成田・森原土地区画整理事業区域内の土地を公開抽選で公売します。

土地の内訳

○住宅用地 7区画(57坪～)

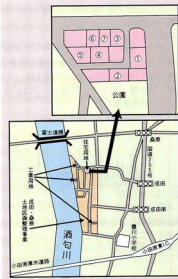
○工業用地 3区画

パンフレット配布

日時 10月13日(月)～24日(金)(土・日除く)

場所 工業団地整備事務所(市役所6階)

☎工業団地整備事務所 ☎33-1507



自然探究会 きのこを観察しよう

「きのこ」には食べられるものと食べられないものがある。この違いを観察します。

期日 10月12日(日) 雨天中止

集合 午前9時 入生田駅前

解散 午後2時30分 石垣山一夜城跡

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)
・30人・先着順

講師 県森林研究所・木内信行さん

参加料 無料(交通費は自己負担)

申込 10月4日(出)から、

郷土文化館 ☎ 23-1377

スポーツ

各種スポーツ大会、講習会など

民謡の集い

日時 10月12日(日)・26日(日)・11月9日(日)・
23日(日) 午後7時～9時

場所 スポーツ会館

参加料 350円

国民謡協会・譲原キヨ ☎ 48-0665

スポーツ会館の行事

①体育の日無料開放

日時 10月10日(祝) 午前9時～午後4時30分
開放施設

・体育室 バドミントン2面/卓球6台
・トレーニング室

②トレーニングルーム利用者講習会

日時

10月11日(出) 午後1時30分～3時

10月15日(水) 午後6時30分～8時

10月25日(出) 午後6時30分～8時

11月8日(出) 午後1時30分～3時

対象 16歳以上

③スポーツフェア'97

スポーツ会館を利用してのサークルが一堂に会し、日ごろの成果を披露します。

日時 10月19日(日) 午前10時～午後3時

内容 軽体操、ヨーガ、民謡、エアロビクス、少林寺拳法など

☎ スポーツ会館 ☎ 23-2465

10月10日体育の日 施設無料開放

城山陸上競技場

時間 午前9時～午後5時

城山陸上球場(テニスを楽しむ日)

硬式テニス・ソフトテニス

時間 午前10時～午後4時(雨天中止)

☎ 体育課 ☎ 38-1147

こどもの行事

児童対象の行事など

一日図書館員

図書館員にチャレンジ

図書館について勉強したり、コンピュータを使った仕事にチャレンジしませんか。

日時・対象

①11月3日(祝) 午前8時40分～正午

小学4～6年生・8人・抽選

②11月9日(日) 午前8時40分～正午

中学生・8人・抽選

場所 かもめ図書館

申込方法 はがきに、住所・氏名・電話番号・学校名・学年を書いて10月17日(金)

(消印有効) までに送付

申込 〒250小田原市南町番1-5-30

かもめ図書館 ☎ 49-7800

私は本が大好きで、よく図書館を利用します。だから、「一日図書館員」は本当に楽しかったです。特に、カウンターでの本の貸し出しがおもしろかったです。逆に、本を元にもどす作業は、意外と大変なことがわかりました。一般の人が見られないところを見せてもらったり、図書館についていろいろと説明してもらったり、すごく勉強になりました。異で3番目に大きな図書館が小田原にあるなんて本当に便利です。これからも図書館をいっぱい利用して、たくさんの本を読みたいです。また、こういう活動があったら、ぜひ参加してみたいです。

掛村なつみ(白旗中1年)



掛村さんは7月に一日図書館員にチャレンジしました。

中央公民館スタディーズプラザ 歴史散歩～小田原城の楽しい歩き方～

私たちのまちのシンボル小田原城。正しい登城の仕方など、誰もが知っているよう知らないお城の姿を探しに行きませんか。

日時 11月8日(出) 午前10時～午後3時

対象 市内在住の小学4年生～中学生・20人・抽選

申込方法 往復はがきに住所・氏名・電話番号・学校名・学年・「歴史散歩希望」を書いて、10月28日(火) (消印有効) まで

に送付

申込 〒250 小田原市荻窪300

小田原市中央公民館 ☎ 35-5300

アニメ

☐ かもめ図書館会場

時間 午後1時30分～(開場は1時)

定員 180人・先着順

プログラム(アニメ)

①10月11日(出) 赤毛のアン3 (50分)

②10月12日(日) おにたのぼうし(18分) 大造じいさんとがん(23分)

③10月19日(日) おじいさんと不思議なおくりもの(16分)、パピロワさんこんばんは(24分)

☐ かもめ図書館 ☎ 49-7800

☐ 市立図書館会場

日時 10月19日(日)

午後1時30分～(開場は1時)

定員 80人・先着順

プログラム(アニメ)

虹猫のぼうし(11分)、くまのプーさん ンブーさんと虎(30分)

☐ かもめ図書館 ☎ 49-7800

☐ 尊徳記念館会場

日時 10月11日(出)

午前10時～(開場は9時50分)

午後2時～(開場は1時50分)

定員 60人・先着順

プログラム(アニメ)

きつねのしっぽ(17分)、よむむし太郎(15分)、しあわせの王子(10分)

☐ 尊徳記念館 ☎ 36-2381

市民プラザ

心理学セミナー

日時・内容・場所

①10月26日(日) 午前10時～正午

講演会「悩むココロ」 中央公民館

②11月2日(日) 午後1時～3時

話のきき方教室「イメージを使って話をきく」マロニエ

参加料 各500円

託児・手話 予約制

☎ ランプライトの会・田中 ☎ 42-5210

神奈川県小品盆栽展

日時 10月9日(休)～12日(日) 午前9時～午後4時

場所 常盤木門展示室(城址公園内)

☎ 湯川 ☎ 0467-82-5326

講演・講座

講演会・展示・発表

平和講演会
戦後50年を生きてきて

憲法施行50周年にあたる今年の平和講演会は、平和憲法の話から身近な法律相談まで幅広く活躍されている弁護士・三瀬顕さんを講師として招きます。



三瀬さんは、NHKテレビ「生活笑百科」に長年、レギュラー弁護士として出演。法律相談に対する気さくな回答と笑顔のよさで、全国のお茶の間で知られており、豊富な人生経験をもとにした人情味あふれる話がとて好評です。

日時 11月7日(金)午後2時～3時30分
場所 保健センター
定員 200人・先着順
申込 行政総務課 ☎ 33-1291

おだわらシルバーク大学公開講座

おだわらシルバーク大学で、二つの公開講座を開きます。

■まちづくり講座 (4回シリーズ)

期日・内容・講師

10月30日(休) 都市景観とまちづくり

元法政大学教授・田村明さん

11月6日(休) 環境保全とまちづくり

江戸川大学教授・恵小百合さん

11月13日(休) 高齢化社会とまちづくり

立教大学名誉教授・岡本包治さん

11月20日(休) 生涯学習とまちづくり

東京大学助教授・鈴木真理さん

時間 午前10時～正午

場所 マロニエ

定員 50人・先着順

■小田原の江戸時代

広重の版画に代表されるように、江戸時代、小田原は宿場町として発展しました。当時のおだわら学びます。

日時 11月6日(休)午後2時～4時

場所 中央公民館

講師 小田原短期大学講師・宇佐美ミサ子さん

定員 200人・先着順

申込 10月8日(火)～24日(金)に、
社会教育課 ☎ 33-1712

フェミニストとよむ
林芙美子の時代

昭和初期には、多くの女性作家が登場し、才能を開花、発展させました。中でも、「放

浪記」に代表される林芙美子は、数奇な運命のもとに生を受け、波乱に満ちた人生を赤裸々につづった作風で文壇に旋風を起こしました。作品を通して林芙美子の人生を読み解きます。

日時 10月21日(火)午後1時30分～3時30分
場所 かもめ図書館

講師 東京女学院短期大学教授・尾形明子さん

定員 180人・先着順

託児 12人(2歳以上就学前) 予約制

申込 女性行政室 ☎ 33-1725

市民文化祭メイン事業
山田太一講演会・映画会

11月3日は文化の日。市では毎年、市民文化祭のメイン事業として、文化の日になんか話を聞いています。

今年は、テレビドラマ「岸辺のアルバム」「ふぞろいの林檍たち」など数々の名作ドラマの脚本家として有名で、小田原・城下町大使である山田太一さんを招きます。「文化・私の体験から」と題して、映画制作、テレビ番組制作、作家活動の中で体験した「楽しさ」や「苦い思い出」を通して文化について語っていただきます。

第2部では、山田太一原作映画「異人たちの夏」を上映します。

内容

■第1部 午後1時30分～3時(開場は1時)

山田太一講演会「文化・私の体験から」

■第2部 午後3時10分～5時

山田太一原作映画「異人たちの夏」上映会(監督:大林宣彦、出演:風間杜夫、秋吉久美子、片岡鶴太郎、永島敏行ほか)

日時 11月3日(祝)午後1時30分～5時

場所 市民会館

定員 1100人・先着順

申込 10月8日(火)から、

社会教育課 ☎ 33-1720

かながわウエスト
セミナー&コンサート

日時 11月4日(火)午後1時30分～

場所 湯河原観光会館

内容

■セミナー 「スポーツ人間像 名勝負、名場面から何を学んだか!!」

講師 西田善夫さん(NHKのスポーツ放送でおなじみのベテランアナウンサー、NHK部外解説委員、国立鹿屋体育大学客員教授)

■シンセサイザーコンサート ～心の安らぎ～緑と水の国づくりコンサート

出演 矢吹紫帆さん(NHK番組「美の回廊をゆく」/「日本の美再発見」などのテーマ曲と音楽を担当。国際交流基金の親善大使として世界各地でコンサートを開いている)

申込 10月1日(水)から、
県西地域広域市町村圏協議会事務局
(企画政策課内) ☎ 33-1254



西田善夫さん



矢吹紫帆さん

10月11日～17日かながわ消費者月間

■消費者被害防止キャンペーン

日時 10月13日(月)午前10時30分～正午

場所 小田原地下街

■パネル展示

日時 10月13日(月)～17日(金)午前9時～午後5時

場所 小田原消費生活センター(小田原合同庁舎内)

■秋期暮らしの大学

時間 午後1時10分～3時10分

場所 小田原合同庁舎

定員 各70人・先着順

申込 小田原消費生活センター ☎ 22-1151
内線252

日程	テーマ
10/17(金)	暮らしの中のマナー ～お付き合いのイロハ
10/21(火)	健康・安全で便利な生活用品
10/23(木)	ガーデニングを楽しむ ～洗濯物の似合う庭
10/27(月)	保険と年金
10/28(火)	医食同源 ～今だからこそ考えたい食の源

消費生活講座

あなたは大丈夫? 悪質商法

このごろ世間を騒がせている悪質商法。その手口やクーリングオフの方法を専門家が詳しく説明します。

日時 10月24日(金)午後1時30分～3時30分

場所 マロニエ

定員 50人・先着順

申込 市民生活課 ☎ 33-1396

市役所の市民相談室が一日出張

日時 10月24日(金)午前9時～午後4時

場所 マロニエ

市民生活課 ☎ 33-1396

伊豆萋山、修善寺の 史跡を訪ねて

日時 11月13日(木)

集合 午前8時30分に箱根登山鉄道小田原
観光営業所前

コース 三島神社、萋山史跡(願成就院、
萋山城址ほか)、修善寺(修善寺、独鈷の
湯ほか)

定員 40人・先着順

参加料 3,000円(昼食は各自用意)

申込 10月18日(土)午前10時～正午に小田原
駅前ふらっとスポットで受け付け。参加
料を添えて申し込みを。

文化連盟・伊与田 ☎ 48-8790

東海道ルネッサンスシンポジウム 大蔵・平塚

日時 11月29日(土) 正午～午後4時30分

場所 平塚市美術館(平塚市西八幡)

テーマ 「湘南」の歴史・文化を考える
～歴史と景観を活かすみちづくり・まち
づくり～

内容 基調講演(佐藤雅美さん)

パネルディスカッション

定員 150人・先着順

申込方法 はがき(1人1枚)に、住所・

小田原ゆかりの優れた建造物一般公開(自由見学)と見学会

「小田原ゆかりの優れた建造物」をマイ
クバスで巡る見学会を行います。また、
この日には、建造物の一般公開もします。
一般公開では小田原ボランティアガイド協
会員のガイドもあります。

ゆかりの優れた建造物は、普段は公開し
ていませんので、この機会をお見逃がしな
く(裏表紙で建造物を紹介しています)。

■一般公開(自由見学)

日時 11月14日(金)・15日(土)

午前10時～午後4時

場所 地図をご覧ください。

諸戸部 国府津5-8-4

静山荘 南町3-1-20

岩瀬部 鶴宮692

割烹旅館山月 板橋913

※駐車場はありません。



梅料理アラカルト

曾我で栽培されている梅

白加賀…江戸時代から栽培されているとい
う古い歴史があります。曾我の梅林でも
梅酒用として多く栽培されています。
十郎…神楽川生まれ。昭和35年に小田原市
梅研究会が曾我物語の主人公「五郎、十
郎兄弟」と梅の振興に熱心だった当時の
鈴木十郎市長の名前を参考に命名しまし
た。現在は漬物用の代表品種です。

杉田…一説では横浜市生まれと言われてい
ますが定かではありません。曾我の梅林
でも梅酒用、梅干用として古くから栽培
されています。

いかボール

材料 いか1/4ばい にんじん20g

たまねぎ20g セロリ20g

パン粉5g 卵1/4個 小麦粉20g

梅肉10g みりん少々 油10g

作り方 いかと野菜を細かく切り、とぎ卵、
小麦粉、梅肉を合わせ、ボールを作りパ
ン粉にまぶし、揚げる。



第4回梅料理
コンクール
優秀賞
柏木美鈴さんの
作品

氏名・年齢・職業、電話番号を書いて10
月24日(金)(消印有効)までに送付

申込 〒254 平塚市浅間町9-1平塚市道路部
県道推進室川東海道路ルネッサンスシンポ
ジウム実行委員会事務局

☎0463-23-1111内線411

母親クラブ大会

母親クラブ大会は、各地域で活躍をされ
ている母親の皆さんの発表の場であり、パ

ザーや模擬店など多数の出店も予定されて
います。会員以外の皆さんの参加もお待ち
しています。是非ご参加ください。

日時 10月26日(日)午前10時～(バザーは午
後1時～)

場所 マロニエ

☎青少年課 ☎33-1723

さかなまつり

日時 10月26日(日)午前9時～午後4時

場所 小田原市公設水産市場(小田原漁港)

内容 魚の展示、生鮮魚介類の販売、マグ
ロの抽選会、氷の彫刻実演、ぬり製品や
さかなのつくり方教室、タッチングプ
ール、小田原吹奏楽研究会・小田原北條太
鼓の演奏、児童絵画の展覧会など

☎水産海浜課 ☎22-9227



とれたての魚をどうぞ 小田原・港の朝市

10月は毎週土曜日に開催

場所 小田原漁港 西側岸壁

時間 鮮魚は午前9時～

(鮮魚以外は午前8時30分～)

市漁協 ☎22-6617



草花の即売会 12日(日) 26日(日)

フラワーガーデン ☎34-2894

イベント

各種催しものなど

市民ロビーコンサート 公募による小田原ゆかりの音楽家

～晩秋に揺れるコスモスの調べ～

芸術の秋にちなみ、今回と次回は市民の皆さんの中から応募いただいた演奏者のジョイントコンサートを開催します。記念すべき第1回目は、青柳真理さんのピアノと宇佐美弥生さんの声楽（ソプラノ）と松岡香織さん：伴奏（ツラノ）アベマリア、花占い（マスカーニ）トウランドットより（ブッチェーニ）ほか

■文化交流課 ☎ 33-1706



▲宇佐美弥生さん（右）・松岡香織さん（左）
▼青柳真理さん



今回の表紙

今回は、2～9ページの特集で取材した3組の親子が登場していただきました。

広報おだわらは通常、1月号が16ページ、15日号が12ページで構成されていますが、この10月1日号は24ページ。小田原に暮らす人の思いを知ること、[皆が小田原のことを考え、今以上に小田原のまちを好きになってほしい]、こんな思いで8ページ分の特集を組みました。

また、今回から表紙の「小田原」の文字の色が変わりましたが、お気付きですか。これは朝焼けの写真を切り抜いたもの。水平線から顔を出す朝日を撮ろうとカメラを構えていたとき、鮮やかな空の赤い色に感動して写したのを今でもよく覚えています。広報おだわらは3か月ごとに表紙の「小田原」の文字の色を変えています。

場所 市役所2階市民ロビー

出演と曲目

- ・青柳真理さん（ピアノ）
 - 小犬のワルツ、バラード1番（ショパン）
 - ・宇佐美弥生さん：声楽（ソプラノ）
 - ・松岡香織さん：伴奏（ツラノ）
 - アベマリア、花占い（マスカーニ）
 - トウランドットより（ブッチェーニ）ほか
- 文化交流課 ☎ 33-1706

シンポジウム 環境基本計画と環境教育

～自然保護、リサイクルを中心とした環境教育～

日時 10月20日(月)午後2時～4時

場所 市役所大会議室

コーディネーター

関東学院大学名誉教授・武藤暢夫さん
パネリスト

- ・日本野鳥の会神奈川県支部オアジサシプロジェクトチーム代表・頼ウメ子さん
- ・市環境審議会委員・小清水晴美さん
- ・イオンフォレスト社長・木全ミツさん
- ・かながわトラストみどり財団事務局長・本間正幸さん

■環境保全課 ☎ 33-1481

環境基本計画策定の市民懇談会

市は、環境行政を計画的、総合的に進めるため、昨年度から環境基本計画を策定中です。このたび、環境基本計画の方向性を示し、皆さんのご意見、ご提案をいただく市民懇談会を開きます。

日時 10月14日(火)午後2時～4時

場所 マロニエ

テーマ 省資源・循環型社会の構築を目指す

対象 市内に在住・在勤・在学の方

■環境保全課 ☎ 33-1481

ふれあい・けんこう フェスティバル

日時 10月17日(金)～19日(日) 午前10時～午後4時

場所 保健センター、いそしぎ

内容 軽体操、民謡、囲碁教室、シルバー人材センター作業実演、健康相談、介護・育児・年金相談、三世代交流「みんなでも楽しむ日本の遊び」、バザー、映画会、ダンスパーティーなど

※3日とも共通の内容ではありません。日によってプログラムが異なります。

■市民健康課 ☎ 47-0820

高齢福祉課 ☎ 33-1841

一夜城まつり

豊臣秀吉が小田原合戦で一夜にして築いたと言われる「石垣山一夜城」。石垣山の自

然と、邦楽演奏や野だて、北条鉄砲衆の演技から、いにしへの情緒にふれてください。

日時 10月19日(日)午前10時～午後3時30分
雨天中止

場所 石垣山一夜城歴史公園

交通 JR早川駅・箱根登山線箱根板橋駅から無料シャトルバス（早川駅発は午前9時から20分間隔、箱根板橋駅発は午前9時から30分間隔、石垣山一夜城歴史公園発の最終は午後5時）
・箱根登山線風景・入生田駅から徒歩40分
■観光協会 ☎ 22-5002
■観光課 ☎ 33-1521

不用品即売会

日時 10月19日(日) 午前10時～午後2時
(売り切れ次第終了)

場所 マロニエ

出品受付

・日時・場所 10月18日(土) 午前10時～午後2時・マロニエ201集会室

・取扱品目 日用雑貨、陶器、ガラス器、衣料品、食料品、文具、楽器などで、新品の物（中古衣料は無料提供・大型不用品は事前に電話受付）

■市民生活課 ☎ 33-1396

小田原城秋季特別展 版画に見る関東大震災

大正12年9月1日に発生した関東大地震は関東地方各地に大きな被害をもたらしました。震災の直後に出版された、各地の被災状況を記録した版画のうち、小田原を含む広範囲の状況を記録した「大正震災木版画集」全36巻を展示します。当時の人々が見た情景を版画を通してご覧ください。

日時 10月10日(金)～11月9日(日) 午前9時～午後4時30分

場所 小田原城天守閣

■小田原城天守閣 ☎ 23-1373

親子ふれあいサイクリラリー サイクリングで親子のふれあい

定められたコースを自転車に乗って、クイズやゲームを楽しみながらゴールを目指してください。

日時 11月3日(祝)午前9時～正午

(雨天のときは、11月16日)

集合 小田原アリーナ前庭（東富水小学校正門付近）

コース 小田原アリーナ～富士道橋～県サイクリングコース周辺～尊徳記念館

対象 小学1～6年生の子供と保護者50組（それぞれ自転車に乗って参加、自転車は持参）

参加料 1組1,000円（保険料を含む）

申込 10月6日(月)～20日(月)、

青少年課 ☎ 33-1723

広報 おだわら

October 1, 1997 No.708

m message



諸戸邸 (大正6年、森林王・諸戸清六の子、精太が建築)

窓ガラスの厚さが均一でないため、窓を通して望む相模湾はゆがんで見えます。玄関そばにある杉へぎ板の網代編みの障子は、紙張りの障子と市松模様になり、職人のていねいな仕事ぶりがうかがえますね。



静山荘 (明治25年建築、財界で活躍した望月軍四郎が昭和14年に現在地へ移築)

太くて堅い榿(ひのき)の柱、厚くて長い神懸など材料のよさに加え、家を通った職人たちの技術の高さに感動します。内部には趣味で集められた昔の農作業の道具などがあり、なつかしさも感じられます。



山月 (大正9年、財界で活躍した大倉喜八郎が建築)

建てられた当時は共済亭という別荘でした。今は温泉旅館として生まれ変わっています。2階の書院造りの間の板戸には、梅、水仙、つわぶきなどの草木が、彫金細工と岩絵の具で豪華にえがかれています。すごいですね。



ゆかりの建造物

11/14・15 一般公開とバス見学会
ボランティアガイドも現地で説明

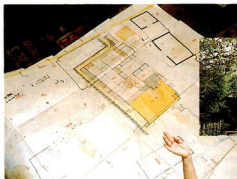
小田原ゆかりの建造物として認定されている4件の建物が、11月14日(金)・15日(土)に一般公開。これに合わせてバスで建物を巡る見学会も行われます。



ゆかりの建造物は普段は公開されていません。この機会に、建物を通して小田原の歴史を感じにお出かけになりませんか。

公開日には、私たち観光ボランティアガイドも現地で説明をします。お越しのときは声をかけてください。

バス見学会と建物の場所は22ページをご覧ください。
☎文化財保護課 ☎33-1717



岩瀬邸 (安政4～5年建築、財界で活躍した岩瀬英一郎の家)

かやぶき屋根は、南と北の半分に分けられ、それぞれ10年程度でふき替えられています。建物左側の出入口は偉い人専用のもので、普段は竹を通して出入りを禁じ、現在もその跡が残っています。建築当時の家相図も残っているんですよ。

